



TITLE:

京大広報 No. 61

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 61. 京大広報 1971, 61: 222-222

ISSUE DATE:

1971-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209634>

RIGHT:

京大広報

No. 61

京都大学広報委員会

月曜会メモ

第94回(9.6) 司会 高橋幹二会員
会員の交替について：9月1日付、経済研究所
森口親司会員より佐和隆光助教授に交替。

報告事項：なし

議題1：前回からの継続事項である「財団法人
京都大学学術出版会（仮称）設立のための調査機
関の設置」について、配布された資料について呼
びかけ人の説明を聞いた後、意見を交換した。一
般論としては、このような出版会を設立すること
についてとくに反対の意見はなかった。しかし、
事業内容、財政等について問題も多いと考えられ
るので、調査機関を設けてさらに詳細に検討する
必要がある、というのが大方の意見であった。
なお、「この種の問題にはとくに多くの教官の熱
意が必要である」、また、「調査機関を設けると
して、もちろん大学当局の援助、助成は必要であ
るが、まず非公式なものとして出発し、かなり先
行的な作業を進めてもよいのではないか」、などの
意見があった。

議題2：「京都大学における改革問題」を討議
対象とした。配布された資料は、①中教審答申
（昭46. 6. 11）、②国大協運営協議会報告書（昭
46. 6）であったが、そのほかに大検委第1部会の
「大学の任務」に関する討論内容も参照された。

このうちとくに論議の集中した、大検委第1部
会の考え方については、「大学の理念問題につい
て避けることなく取組んだことを評価する。早い
機会に公開して全学的討議の対象としてはどう
か」、との意見があった。またその内容につい
ては、「研究と教育とのうちで研究に重点があり過

ぎはしないか。研究の価値判断の尺度として有用
性以外のものがあるとしてもよいのではないか」、「
研究と教育との相互関係についての議論ではなく、
その一体性のようなものがより強く主張されてよ
いのではないか」、「全体として旧制大学的発想
が濃く、全国的な大学の現状に必ずしも対応して
いないのではないか。たとえば大学の大衆化など
への視点が欠けている」、などの意見があった。

次回予定：大学改革問題についての、次回から
の月曜会の討論の方向は、「京都大学として、制
度上あるいは運用上、具体的に改革すべき点があ
るとすれば何か」を中心とすべきことが確認さ
れ、まずその例として「大学大衆化に対して京都
大学はどう対処するか」、および教授、助教授の
差別をなくした「1講座1教授の新講座制（国大
協報告書 P.42）をどう考えるか」、について討論
することになった。（高橋幹二会員）

学生部長の交替について

浅井健次郎前学生部長は、9月30日辞任され
た。その後任として川又良也教授（法学部・商法
専攻）が10月1日付で新学生部長に発令された。